

週報

こひつじ

第41巻 25号
 大津キリスト教会
 菊池郡大津町室 119
 TEL 096-293-4470
 FAX 096-293-4961
 牧師 米村 英二

いま私たちは神の子どもです

その二 天地創造の神をイエスは父と呼ばれた

天地創造の神が、父であるといふ思想を最初に持たれたのはイエスである。そこにイエスの独創がイエスの一二歳のときである。あった。

荒野で、イスラエルの民が、「どうか、私たちに話してください。私たちは聞き従います。しかし、神が私たちにお話しにならないように。私たちが死ぬといけませんから」(出エジプト二〇の一九)イエスを宮に見つけたのは、三日とモーセに言ったように、神は、

当時、多くの人にとっては恐るべき、畏敬すべき方であったのである。ところがイエスは、幼い時から、父上も私も、心配してあなたを捜

し回っていたのです」

するとイエスは答えられた。

「どうしてわたしをお捜しになったのですか。わたしが必ず自分の父の家にいることを、ご存じなかったのですか」

意外なイエスの答えに、マリヤは当惑した。それはイエスとの間に生じた初めての確執だった。しかしマリヤはそれらのことをみな心に留めたと聖書は記している。

一二歳のイエスが、母マリヤに對して、これまでとは異なる、やや独立的と思われる態度をとられたのはなぜか。

自分が神の子であることを、はつきりと自覚されていたからではないだろうか。そしてそのことの宣言が、

「わたしが必ず自分の父の家にいることを、ご存じなかったのですか」

というイエスの言葉であったと思われる。

イエスは、それ以来、家族を超え、民族を超え、もっと広い世界のために生きる人となられたのである。

このようにイエスの人生を大きく変えたのは、神の子としての自覚であった。

ではイエスは、どのようにして、その自覚を得られたのだろうか。

天の父との日ごとの交わりによってである。

弟子たちは知っていた。イエスが朝早くまだ暗いうちに起きて寂しい所へゆき、そこで祈っておられるのを。そしてイエスの愛と力が、その祈りから来ていることを薄々感じていた。そこで弟子たちは言った。

「私たちにも祈りを教えてください」

するとイエスは、自分の秘密を明かされた。

私と神の関係は、父と子との関係なのだ。あなたがたも同じである。だから祈るときは、こう祈りなさい。

「天にいます私たちの父よ」と。弟子たちは驚いただろう。

天地万物の創造者である神を、父と呼びしてよいのかと。

しかし、神を父と呼ぶことがイエスの宗教の本質であり、すべて

だった。

イエスの宗教とは単純にそれだけだった。

そこには、神殿もなければ儀式もなかった。イエスは、ただ、父と交わり、父に聞き、それを実行に移されたのである。

イエスのすべての行動は、父との交わりの中から生まれた。だからイエスは言われた。

「子は、父がしておられることを見て行なう以外には、自分からは何事も行なうことができません。父がなさることは何でも、子も同様に行なうのです。それは、父が子を愛して、ご自分のなさることをみな、子にお示しになるからです」(ヨハネ五の一九、二〇)

(続)

今日の礼拝

○第一礼拝は午前一〇時、第二礼拝は午前一一時から。

○教会学校は午前一〇時から。

○説教は米村牧師。

○第二礼拝後、いつも軽食が用意されています。どなたも自由に

お残りくださって、お互いの交わりのときとしていただければ感謝です。

先週の礼拝

○合同礼拝でした。司会は宮元隆博さん。証と勧めは小堀久男さん。

○小堀さんは長い間、中学校で英語の教師をしておられました。退職して、その後、しばらく菊池市の図書館に勤務したのち、今は、日本語教師として東南アジアの方がたに日本語を教えておられます。中学時代に初めて教会に来て、そこで信仰をもったときのことを詩に書き留められました。その詩を紹介しながら、当時の若者たちの純粋な信仰を思い起こさせてくださいました。

先週の礼拝参加者

○礼拝参加者は七六名(男二八、女四八)。それに子どもが一〇名。合わせて八六名でした。

○小国町から花園恵美さんという方が、初めて礼拝に来てくださ

いました。

『こひつじJr』

『こひつじJr』第三二号がで

きがありました。受付にあります。自由にお取りください。毎回、違った人を紹介する「あの人インタビュー」が好評です。今回は、野口裕治さん。「編集室から」は山村孝正さんです。

次週の案内

○次週七月六日の礼拝は、米村牧師夫妻は出張のため欠席です。

○説教は、岩崎宏志さんがしてください。岩崎さんは長く熊本市役所で働き、退職されてもう数年になります。また長老のひとりとして、教会を支えてくださっています。当教会には大津クリスチャンシンガーズという音楽グループがありますが、そのボーカルも担当しています。

消 息

○野口裕治さんが本田技研熊本製作所に転勤になってしばらくたちますが、子どもたちのために東京に残っていた妻の訓子さんも熊本に帰って来られました。